

令和3年度 学校評価 報告書

報告日
令和4年3月7日

幼稚園名	芦屋市立小槌幼稚園
園長名	高橋 弘美 印

1 今年度の重点目標

- 1 幼児期にふさわしい生活の展開
- 2 健康で安全な幼稚園生活の創造
- 3 子育て支援の充実

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・教育評価に関する保護者アンケートを実施、集約し、保護者に周知した。
- ・重点目標に対しての取り組みは適切になされている。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策
1	教育過程	1	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育目標である「心も体もたくましい幼児の育成」に向けて、身近な生き物や草花とのかかわりを通して感動体験ができる保育を1年を通して推進した。6月には、芦屋市教育委員会指定の研究会を実施した。保育を公開し、「幼児同士がつながり合っている」視点を参観者とともに考え、協議することによって、様々な視点から幼児の育ちを捉えることができた。 ・運動遊びでは、朝の体操タイム、巧技台、竹馬、パカポコ、縄遊びなど継続し、遊びが広がり工夫が生まれる中で、体の基礎作りとなるように取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や生き物とのかかわりが、旬を逃さず、継続的に行われるよう、園内の様々な場所の環境の構成を工夫し、計画的に進めていく。また、環境作りに年長児も参加することで、主体的な活動につながっていくと考える。 ・一人ひとりの内面の理解を深め、家庭とも十分に連携をしていきながら、教育理解を測ることが求められる。
2	園運営	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、健康で安全な生活を営むために、幼児自身が正しい知識を得て、自分の体や衛生面に関心を持ち、生活が進められるように保育を工夫した。活動によって、自分で考えマスクを着脱できるようになり、黙食も意識できるようになった。 ・地域との交流では、だんじりを見せていただいたり、とんどに参加したり、継続して図書館に行くなど、幼稚園が子ども達と地域をつなぐ役割が果たせるように努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自らが健康や安全、病気予防に主体的に取り組めるよう、分かりやすく伝え、指導することが大切である。 ・今後も地域の中で暮らす子ども達が、自分の住む地域のことをよく知り、好きになり、かかわっていけるよう、幼稚園での教育活動を工夫していくことが大切である。

4 評価項目に係る学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園に通わせたいという保護者の願いを、しっかりと受け止め、小槌幼稚園独自の教育内容をさらにPRしながら教育活動を進めていくことが大切ではないか。 ・重点目標に対しての取り組みは適切になされており、次年度も身近な生き物や草花とのかかわりを遊びの素材とした保育を推進していったほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・2月に実施した「教育評価アンケート」でも園の教育活動への高い評価を得ており、保護者の幼稚園への信頼が園の教育を支えている。 ・コロナ禍のなかで、活動への制限がある中、様々な工夫をしながら、教育が進められていることが伺える。 ・小学校登校時に挨拶ができにくい実態があり、「挨拶」を幼稚園でも大事にしてほしい。

5 総合的な学校関係者評価

- ・保護者の教育評価は具体的に丁寧に実施されており、園における教育活動の取り組みは良好である。